

白岡市環境基本計画リーディングプロジェクト進行管理シート

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|------------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-------------|---------|---------|---------|---------------|-----------------------|--|--|--|--|--|--|---|--|--|--|--|
| リーディングプロジェクト1 | | | | | | | | | | | 低炭素社会から脱炭素社会の実現にチャレンジする脱炭素社会を実現しよう！プロジェクト | | | | | | | | | | |
| 令和4年度における関連する社会の出来事 | | | | | | | | | | | 2022年7月に首相官邸にGX実行会議が設置され、GXを通じて脱炭素、エネルギー安定供給、経済成長の3つを同時に実現するため、政府全体で検討が行われ、2023年2月にGX実現に向けた基本方針が策定された。 | | | | | | | | | | |
| ■脱炭素社会を実現するための取組 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ◆脱炭素社会の実現に向けた白岡市の地域全体の取組を強化します！ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 環境基本計画で定めた「市の具体的な取組」 | | | | | | | | | | | 令和4年度に実施したこと | | | | | | 評価 | | | | |
| ●白岡市の全域から排出される温室効果ガスの削減を目指した地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の策定に努め、市・市民・事業者の三者協働による総合的な地球温暖化対策を推進します。 | | | | | | | | | | | (環境課) クールチョイス事業の一環として、地球温暖化について楽しく学ぶコミックサイエンスショーを大山小学校で開催するなどした。 | | | | | | 新型コロナウイルス感染症の影響により、多数の市民が集まる施設やイベントで啓発活動を十分に実施することができなかった。令和5年度は様々な機会をとらえ、地球温暖化問題について普及啓発を行う。 | | | | |
| ◆省エネルギー活動や再生可能エネルギー、高効率なエネルギーの利用を進めます！ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 環境基本計画で定めた「市の具体的な取組」 | | | | | | | | | | | 令和4年度に実施したこと | | | | | | 評価 | | | | |
| ●公共施設は、石油依存度低下につながる再生可能エネルギー機器の導入・活用を推進します。 | | | | | | | | | | | (財政課) 当該年度中の実施事業無し。 | | | | | | 令和4年度については、篠津分署が埼玉東部消防組合から市に移管されたため、太陽光発電が搭載された公共施設が増加した。今後も導入について検討を進めていく。 | | | | |
| ●省資源・省エネルギー等に配慮した環境負荷の少ない住宅の普及を図り、環境にやさしい住宅づくりを促進します。 | | | | | | | | | | | (環境課) 省エネ・創エネ機器設置への補助金を支出した。 また、12月には一定基準を満たす省エネ家電製品等を買換え購入した世帯を対象に補助金を交付する、「白岡市省エネ家電製品等買換え促進補助金事業」を実施した。 令和4年度創エネ・省エネ機器設置費用補助金交付実績 ・太陽光発電システム設置事業補助金 30,000円／件 12件 ・LED照明設置事業補助金 5,000円／件 7件 ・家庭用エネルギー管理システム(HEMS) 10,000円/件 9件 ・家庭用蓄電池設置事業補助金 30,000円/件 32件 省エネ家電製品等買換え促進補助金事業交付実績 ・冷蔵庫 89件 ・エアコン 65件 ・テレビ 31件 ・高効率給湯器 20件 | | | | | | 令和3年度から補助対象機器に加えた、家庭用エネルギー管理システム(HEMS)は、9件の申請があった。 また、定置用リチウムイオン蓄電池については、平成28年度から補助対象に加えて以降、申請件数が毎年増加している一方で、太陽光発電システムの申請件数は平成30年度の28件をピークに減少傾向にある。また、LED照明器具の申請も同様に近年においては減少傾向にある。 令和3年度時点における家庭部門のCO2排出量は、全体の約15%となっていることから、引き続き省エネの啓発とともに、補助対象機器や補助単価等の見直しなど、効率的な補助ができるよう考えていく必要がある。 | | | | |
| ◆暮らしの中で身近に取り組める行動を促進します！ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 環境基本計画で定めた「市の具体的な取組」 | | | | | | | | | | | 令和4年度に実施したこと | | | | | | 評価 | | | | |
| ●地球温暖化対策の一環として、公共施設等に緑のカーテンを設置するとともに、市民や事業者への普及啓発にも努めます。 | | | | | | | | | | | (環境課) 令和4年度は市庁舎、市内保育所、児童クラブで緑のカーテンを設置した。また、市民向けに緑のカーテン活用講座として、講習会を開催し35世帯が参加した。 その他にも、商工会を通じて緑のカーテン設置を希望する6つの事業者にゴーヤの苗を配布した。 | | | | | | 新型コロナウイルス感染症の影響で2年連続で中止していたが、令和4年度は実施することができた。 緑のカーテンは比較的簡単にできる温暖化対策であるため、今後も継続して市民・事業者に対して普及啓発していく。 | | | | |
| ●国、県、市等で行う脱炭素社会構築のための行動促進の呼びかけ(キャンペーン)を行い、市民・事業者に周知します。 | | | | | | | | | | | (環境課) クールチョイス事業の一環として、温暖化防止啓発パネルの展示、温暖化について楽しみながら学ぶコミックサイエンスショーを大山小学校で開催、省エネ家電製品等買換え促進補助金の交付などを実施した。 また、夏と冬に埼玉県が推進する「ライフスタイルキャンペーン」について、市広報紙にて啓発を図ったほか、エコライフDAYの参加を公式ホームページや市公式ツイッターなどで呼び掛けた。 | | | | | | 市内の小学校とも連携した啓発イベント等を開催し、将来を担う世代も含めた全世代を対象とした市民層への普及啓発をすることができた。 また、各種キャンペーンについては、脱炭素社会の実現に向け、従来どおりの広報紙及び公式ホームページでの告知だけでなく、公式ツイッターなど幅広いツールを活用した告知が必要である。 | | | | |
| ●エコライフDAYの参加を広い世代、様々な主体に呼びかけます。 | | | | | | | | | | | (環境課) 夏と冬にエコライフDAYのチェックシートを市内幼稚園・保育園、市内公共施設へ配布したほか、市広報紙や公式ホームページ、公式ツイッターで参加を呼び掛けた。 | | | | | | 埼玉県としてはエコライフDAYの当初の目的は達成されたものとして取組を縮小しており、実施は各自自治体の任意となっているが、市としては引き続き、公共施設にチェックシートを配布し啓発活動を行っている。 チェックシートで確認しながら、省エネ・省資源などの環境に配慮した生活を意識することで、地球温暖化防止のための自身のライフスタイルを見直す機会となっている。 | | | | |
| ◆白岡市の生活に潤いを与え、貴重な緑の保全と緑化を推進します！ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 環境基本計画で定めた「市の具体的な取組」 | | | | | | | | | | | 令和4年度に実施したこと | | | | | | 評価 | | | | |
| ●市民と協力し、「ふるさとの森」をはじめ、里山林、屋敷林、社寺林などの残された樹木・樹林の保全・管理に努めます。 | | | | | | | | | | | (環境課) 市街化区域内の緑地を保存樹木、保存樹林として指定し、奨励金を交付することにより、緑豊かな生活環境の維持保全に努めた。 彦兵衛下小笠原遺跡ふるさとの森(ひこべえの森)において、樹木の剪定を行った。 | | | | | | ひこべえの森は市民団体(白岡緑と土の会)の協力を得て維持管理を行っているほか、同所において、12月に実施された「冬の集い」では市内4中学校及び白岡高校をはじめとする学生や一般市民、53名の参加があった。 引き続き、緑の維持保全活動を推進していく必要がある。 | | | | |
| ●各家庭、学校、事業所などで草花や樹木の植え付けが行われ、緑豊かでやすらぎが感じられるようなまちづくりを促進します。 | | | | | | | | | | | (環境課) 緑のカーテン事業では個人だけではなく、市内保育所や学童にも配布した。また、商工会の協力を得て事業者にも配布した。 | | | | | | 個人だけでなく保育所や事業者など幅広く配布することにより、私的空間での緑の創出の促進を図ることができた。 | | | | |
| ■「市民・事業者」の取組 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 環境基本計画で定めた「市民・事業者」の取組の例 | | | | | | | | | | | 令和4年度に実施したこと | | | | | | 評価 | | | | |
| 【市民の取組の例】 ●一人一人が省エネに努めるとともに、再生可能エネルギーについての理解や知識を深め、再生可能エネルギー機器を導入しよう。 ●国、県、市等で行う脱炭素社会構築のための行動促進の呼びかけ(キャンペーン)などに積極的に参加しよう。 | | | | | | | | | | | ・創エネ・省エネ促進事業及び省エネ家電製品等買換え促進補助金事業を実施し、市民の再生可能エネルギー機器導入を促進した。 ・埼玉県が推進する「ライフスタイルキャンペーン」について、市広報紙にて啓発を図った。また、エコライフDAYのチェックシートを市内幼稚園・保育園、市内公共施設へ配布したほか、市広報紙や公式ホームページ、公式ツイッターで参加を呼び掛けた。 | | | | | | ・創エネ・省エネ機器の設置費補助については、予算を使い切るほどの申請があった。今後も需要を見定め、補助対象機器を固定せずに柔軟に見直しをしていく必要がある。 ・エコライフDAYは誰もが簡単に参加ができる啓発ツールであるため、今後も積極的に参加を呼び掛けていきたい。 | | | | |
| 【事業者の取組の例】 ●事業所や事業活動において省エネルギー・再生可能エネルギー設備の導入を図りましょう。 ●事業所内の温度を適正に管理し、消灯などの節電、節水を徹底し、備品の再利用など省エネルギーに努めましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| プロジェクトを推進するための数値目標 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当課 | 項目 | 基準 令和元年度 | 令和2年度実績 | 令和3年度実績 | 令和4年度実績 | 令和5年度実績 | 令和6年度実績 | 令和7年度実績 | 中間目標 令和7年度 | 目標 令和12年度 | | | | | | | | | | | |
| 環境課 | 住宅用創エネ・省エネ機器設置費用累計助成件数 | 50件 | 52件 | 62件 | 60件 | | | | 250件 | 500件 | | | | | | | | | | | |
| 財政課 | 公共施設への太陽光発電システム設置基数 | 6基 | 6基 | 6基 | 7基 | | | | 7基 | 8基 | | | | | | | | | | | |
| 環境課 | 市役所庁舎電気使用量 | 1, 016, 412 kWh | 1, 163, 845 kWh | 1, 102, 304 kWh | 961, 202kWh | | | | 955, 427kwh | 904, 606kwh | | | | | | | | | | | |
| 環境課 (連白岡衛生組合) | 市民1人1日当たりのごみ排出量 | 784g/人・日 | 808g/人・日 | 786g/人・日 | 773g/人・日 | | | | 746 g/人・日 | 738g/人・日 (R11年度目標) | | | | | | | | | | | |
| 総括 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ◇低炭素社会から脱炭素社会の実現にチャレンジする脱炭素社会を実現しよう！プロジェクト 脱炭素社会に向けた取組として、市は省エネルギーの観点から取り組んだ。 令和4年3月、「クールチョイス活動推進に向けたプラスチックごみ削減に関する協定」をウォータースタンド株式会社と締結し、市内4か所にウォーターサーバーを設置した。 また、創エネ・省エネ機器の設置費補助については、令和3年度から家庭の電気の使用量や発電量をモニター画面で確認できる(見える化ができる)家庭用エネルギー管理システム(HEMS)を新たに追加し、9件の交付を行った。補助金交付決定者には、補助金制度の利用に至ったきっかけ、今後希望する補助金の機器等についてアンケートを実施した。 緑のカーテン事業は「緑のカーテン活用講座」を実施し、参加者(35世帯)、保育所、学童保育所及び商工会を通じて、市内の6事業者にもゴーヤの苗を配布した。 令和5年度は環境課内にゼロカーボン推進室を設置し、脱炭素社会の実現に向けた取組みをより一層進めていく。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

白岡市環境基本計画画リーディングプロジェクト進行管理シート

リーディングプロジェクト2

多様な生物が生息・生育する環境づくりにチャレンジする生物多様性を保全・創出しよう！プロジェクト

令和4年度における関連する社会の出来事

低炭素社会から脱炭素社会の実現にチャレンジする脱炭素社会を実現しよう！プロジェクトを参照

■生物多様性を保全・創出するための取組

◆多様な生き物の息づくまちをつくります！

| 環境基本計画で定めた「市の具体的な取組」 | 令和4年度に実施したこと | 評価 |
|--|--|---|
| ●市内に生息する生き物などの調査を実施し、市民への情報提供を行います。 | (環境課) 広報紙や市公式ツイッターで、いきもの調査についての周知を行った。また、環境課窓口に、ひこべえの森に生息する動植物の写真パネルと「いきもの調査シート」を新たに設置し、いきもの調査のPRを強化した。 | 環境課窓口に展示している写真パネルと一緒に設置した「いきもの調査シート」を手にする市民が見受けられるようになった。 今後も新たな手法を取り入れることも考えながら、引き続きPRをしていく。 |
| | (生涯学習課) コロナ禍の影響により、例年開催している「田んぼの生き物観察会」及び「夜の昆虫観察会」は中止となったが、「大人の自然観察会(参加:12名)」及び「秋の柴山沼観察(参加:2組6名)」などを開催した。 | 生涯学習課(旧学び支援課)の事業は一度きりではなく、季節ごとに経過を楽しみ学習できる工夫が凝らされている。自然とのふれあいを通じて、親子の絆づくりにも寄与している。令和4年度については、一部事業の実施はされなかったが、今後も学習機会の拡大に期待がされる。 |
| ●市民や関係機関と連携し、貴重な生物や在来種の保護、外来種の移入防止などの必要な保全措置を図ります。 | (環境課) 家屋・農業被害防止のため、市民からの依頼により捕獲器(箱わな)を設置し、アライグマを85頭捕獲した。 | 有害鳥獣被害対策として、引き続き取り組む必要がある。 |
| ●公園や学校などの公共用地については、生態系に配慮して自然環境の創造に努めます。 | (街づくり課) 公園内の樹木について、樹木の状態を注視し適切な時期に剪定等を実施するなど、緑の保全に努めた。 | 公園は市民の健康づくり、憩い、交流の場として、また災害時の避難場所や防災空間としても重要な機能を担っている。市民が安心・安全に公園を利用できるよう、樹木の成長を考慮しつつ、危険箇所を見極めて剪定をするなど引き続き適切な管理に努め、取組を進めていく。 |
| | (教育総務課) 周辺との環境調和や景観美化を図るため、樹木剪定等を実施し、自然環境の創造に努めた。 | 周辺との環境調和や景観美化に配慮した樹木剪定等がなされている。各学校において、引き続き適切な管理に努め、取組を進めていく。 |

◆市民も生き物も安心して共生できる緑や水辺などの保全・創造を推進します！

| 環境基本計画で定めた「市の具体的な取組」 | 令和4年度に実施したこと | 評価 |
|--|---|--|
| ●市民と協力し、「ふるさとの森」をはじめ、里山林、屋敷林、社寺林などの残された樹木・樹林の保全・管理に努めます。 | (環境課・生涯学習課) 彦兵衛下小笠原遺跡ふるさとの森(ひこべえの森)では、12月に「ひこべえの森冬の集い」が開催され、森の大掃除が実施された。 | 市内に存する樹林地の多くは屋敷林や社寺林であるが、中でも彦兵衛下小笠原遺跡ふるさとの森は、市内にわずかに残された雑木林のひとつであり、埼玉県レッドデータブックにより指定された絶滅危惧種である「オオタカ」の飛来や、同じく絶滅危惧種である「シュンラン」などの希少な動植物が確認されている。 こうした背景も踏まえ、今後も引き続き生物多様性の保全・創出に向けた取組を推進していく必要がある。 |
| ●市街化区域内の農地を生産緑地制度等により保全し、都市の緑地空間の確保を図ります。 | (街づくり課) 開発の法令調査において、事業者に対し生産緑地地区内であることを指導し、都市の緑地空間の確保に努めた。 | 生産緑地制度は市街化区域内の農地を保全する上で、非常に重要な施策である。 今後も市街化区域内の農地を同制度等により保全し、都市の緑地空間の確保を図っていく。 |
| ●農業・農村が持つ多面的機能が維持・発揮されるよう、国や県の交付金制度を活用した取組を進めます。 | (農政課) 国の交付金制度を活用し、地域の共同活動を実施している組織に対し、書類作成指導等の支援を行った。 | 水田をはじめ、農地は雨水を一時的に貯留し洪水を防いだり、多様な生き物を育むなどの多面的機能を有している。これを維持・発揮させるためにも、引き続き支援が必要である。 |
| ●市内唯一のビオトープである柴山沼の維持管理に努め、親水空間の保全に努めます。 | (街づくり課) 救命浮環を3か所に設置するなど、柴山沼の親水環境の向上を図った。 | 市内唯一のビオトープである柴山沼は、様々な動植物の生息基盤となっている。 引き続き、遊歩道の整備などにより、親水空間の保全・充実を推進していく。 |
| ●多自然型工法の採用による自然環境への配慮を河川管理者に働きかけ、河川等を整備・充実し、水辺環境の保全・創造に努めます。 | (環境課) 河川管理者の杉戸県土事務所と連携を図り、河川の環境の保全・創造に努めた。 | 引き続き河川管理者と連携を取り、河川の環境の保全・創造に努める。 |

■「市民・事業者」の取組

| 環境基本計画で定めた「市民・事業者」の取組の例 | 令和4年度に実施したこと | 評価 |
|---|--|--|
| 【市民の取組の例】 ●減少傾向にある在来種の保全に努め、また外来種についての情報や知識を共有し、むやみに動物を放さないようにしましょう。 ●敷地内に実のなる木を植えるなどして、鳥や昆虫を守りましょう。 ●市内に生息する生き物に関心を持ち、保全する意識を持ちましょう。 【事業者の取組の例】 ●河川、森林、農地、湿地などが、様々な動植物の生息基盤となることを認識し、自然環境の保全に努めましょう。 ●建設事業等に当たっては、生き物や生態系に配慮した工法を用いましょう。 ●外来生物などの有害鳥獣についての情報収集に努め、駆除活動に協力しましょう。 | 彦兵衛下小笠原遺跡ふるさとの森において、白岡市、市教育委員会、白岡緑と土の会及び町ぐるみん白岡の共催による、ひこべえの森冬の集いが開催され、53名が参加した。 市民団体「元荒川・星川をきれいにする会」による、水辺環境の美化活動が行われた。 | 「白岡緑と土の会」「元荒川・星川をきれいにする会」などの市民団体のほかにも、地元の自治会や行政区による活動が市内の森や河川の環境整備に大きく寄与している。 自然環境の保全を自然環境に親しむ機会と捉え、これら市民団体の活動を広く広報することで、協力者等の増加が図られると考える。 引き続き、市民団体等の活動への支援や協力が必要である。 |

プロジェクトを推進するための数値目標

| 担当課 | 項目 | 基準 | 令和2年度実績 | 令和3年度実績 | 令和4年度実績 | 令和5年度実績 | 令和6年度実績 | 令和7年度実績 | 中間目標 | 目標 |
|--------|------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | | 令和元年度 | | | | | | | 令和7年度 | 令和12年度 |
| 環境課 | 市街化区域内の保存樹林の指定面積 | 20,388㎡ | 15,299㎡ | 15,414㎡ | 15,414㎡ | | | | 現状維持 | 現状維持 |
| 環境課 | 市街化区域内の保存樹木の指定本数 | 10本 | 10本 | 10本 | 10本 | | | | 現状維持 | 現状維持 |
| まちづくり課 | 公園緑地面積 | 39.43ha | 39.43ha | 39.02ha | 39.02ha | | | | 39.43ha | 40.54ha |
| 環境課 | 川の国応援団登録数 | 6団体 | 6団体 | 7団体 | 8団体 | | | | 9団体 | 12団体 |

総括

◇多様な生物が生息・生育する環境づくりにチャレンジする生物多様性を保全・創出しよう！プロジェクト

生物多様性の保全・創出に向けた取組として、市は緑の保全及び自然に配慮した街づくりの観点から取り組んでいる。
市では緑豊かな住みよい自然環境づくりを目指し、市街化区域内に残る健全で美観にすぐれ、地域市民に親しまれている樹木及び樹林を保存樹木・保存樹林に指定し、その維持管理に対して奨励金を交付しており、令和5年3月31日現在において10本の保存樹木、8箇所の保存樹林が指定されている。しかしながら、近年では維持管理の負担や相続税対策など様々な事情で伐採され、保存樹木・樹林は減少傾向にある。

